

事業名

こども神楽体験教室

P

●事業実施に至った背景、目的

普段なかなか着ることができない神楽衣装の試着、道具作りや奏楽体験を通して、子供たちに神楽の魅力を伝えと共、次世代の伝統文化を担う人材の育成及び地元神楽社中との多世代交流を図る。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

地元神楽社中、雲城まちづくり委員会、県立大学生（シェアハウス学生会、県立大神楽同好会）及び雲城まちづくりセンターが連携企画し、実施する。

D

●事業の概要

コロナ禍で、なかなか交流ができない状況が続いた。神楽の上演なども同様であった。そこで、子どもたちに神楽の道具作り、衣装体験そして、神楽鑑賞など神楽の楽しさを体験し、石見神楽に関心をもち、伝統芸能継承の気持ちを育むための行事を計画した。

8月26日、31名の園児や小学生が参加し、神楽の幣や鬼棒を地元社中や大学生が手伝いながら、親子で作製した。衣装を着る体験も行い、衣装の重さなども身をもって体験した。そのあと、地元社中の演目「頼政」などを演じてもらい、神楽のすばらしさを感じる時間となった。

C

●事業実施後の振り返り

初めての神楽体験を通して、神楽に対する興味関心を高めることができた。それは子どもたちだけでなく、保護者にとっても興味深いものであった。

初めての事業であったが、地元社中や県大生の協力を得ることができ、様々なつながりを深めることができた。

夏休みに実施したことにより、幅広い参加者となった。

A

●令和6年度以降の方向性

来年度も実施予定である。継続した事業としていくために、蛇胴を身につけたり、舞の体験活動を取り入れるなど、内容をしっかり検討し、計画したい。

伝統芸能の継承のためにも、幅広い参加を募り、親子や三世代など、より多くの人のつながりを作り上げていきたい。



参加者全体写真



鬼棒づくり



神楽衣装体験